

【背景及び目的】

小学校6年から中学校1年で不登校児童生徒数が約3倍に急増する「中1ギャップ」は本県の大きな課題であり、その解消に向けた小中連携の推進が求められています。

EASY中学校版は中学校入学後の生徒を対象に中学校生活への期待や不安等を測る調査です。

不安感が大きく、支援の必要な生徒へ適切な教育相談活動を展開することや、小中連携の視点の明確化に活用するなど、切れ目のない生徒指導体制の構築が進むようお願いします。

1 実施方法

- (1) 中学校1年生を対象に実施してください。
- (2) 実施時間は、約20分程度ですので、学級活動等の時間を御活用ください。
- (3) 「質問内容をよく読み、素直に答える」よう指示してください。
- (4) 分かりにくい言葉は簡単に言い換えるなど、説明を入れていただいても結構です。

2 実施後の活用

- (1) 調査結果を「学校集計表」の①「データ入力シート」に入力してください。
- (2) 中学校生活への期待と不安の傾向と、配慮の必要等が②「観点別集計」へ集計されます。

【以下活用例】

- (3) ③「学校一覧表」④「学校総合票」の結果をもとに取組の見直しや個別支援等を実施する。

- 「学校生活に関する不安」に対する取組例
【別途生活アンケート等の実施により、不安感の要因を調べ、行事等の見直しを実施】
- 「規則に関する不安」に対する取組例
【道徳や学級指導において、法やきまりの意義について取扱い、規範意識の高揚に努める】
- 「学習に関する不安」に対する取組例
【家庭学習の方法や定期テストへの取組について、十分なオリエンテーションを実施】
- 「先生に関する不安」に対する取組例
【別途生活アンケートや授業アンケート、教育相談週間の実施により、生徒理解を深化】
- 「人間関係・社会的受容」(P.Q.R)に対する不安傾向に対する取組例
【学級活動等でAFPY等の手法を用いた社会性育成プログラムを実施】

3 過去の調査結果について（H21～22年実施、生徒数 9,106人）

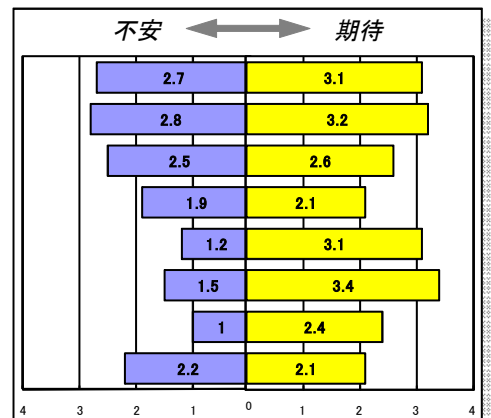
【1, 中学校や中学生になった自分について答えましょう。】

- 32の質問に各2点満点で回答、8項目について期待と不安の傾向を各4点満点で集計

- ・ 全体として、不安より期待が高い傾向にある。
- ・ 部活動(F)について、生徒は大きな期待感を持っており、不安感も比較的小さい。
- ・ 学校生活や規則(A・B)、学習に係ること(C)は期待感と共に不安感も大きく、解消の為の取組が必要である。

図：山口県の平均値
中学校における

- A. 学校生活に関すること
- B. 規則に関すること
- C. 学習に関すること
- D. 先生に関すること
- E. 友達や先輩に関すること
- F. 部活動に関すること
- G. 自分自身に関すること
- H. 家庭生活に関すること



○ 小学校版（H20～21年実施、児童数14,738人）との比較について

	不安傾向			期待傾向		
	小6	中1	差	小6	中1	差
A. 学校生活に関すること	2.9	2.7	-0.2	2.7	3.1	0.4
B. 規則に関すること	3.0	2.8	-0.2	3.2	3.2	0.0
C. 学習に関すること	3.0	2.5	-0.5	2.7	2.6	-0.1
D. 先生に関すること	2.7	1.9	-0.8	2.4	2.1	-0.3
E. 友達や先輩に関すること	2.2	1.2	-1.0	2.7	3.1	0.4
F. 部活動に関すること	2.1	1.5	-0.6	3.1	3.4	0.3
G. 自分自身に関すること	1.2	1.0	-0.2	2.3	2.4	0.1
H. 家庭生活に関すること	2.5	2.2	-0.3	2.1	2.1	0.0

○ 小学校版（6年時実施）と比較して、不安傾向の減少が見られる

中学校入学後の大きな変化である定期テストや受験等の学習に関すること(C)についての不安感、教職員の指導の厳しさや授業の進度の速さ(D)、複数校からの入学による友人関係の変化や先輩等との人間関係(E)についての不安感は、入学後の適切なオリエンテーションの実施等により大幅に減少している。

一方、中学校生活での多忙感(A)や生活の規則(B)に関すること等については、不安の解消が有意差として見られず、小中学校の滑らかな接続を図るための取組が必要である。

【2.現在の自分をふりかえって答えましょう】

○ 18の質問に各2点満点で回答、対人関係等の適応状態を3項目に分類して集計

分類内容	平均:中(小)／満点	配慮の必要な児童(▲)の出現率:中(小)
P. 対人関係の不安	2.6(2.6)／10	2.4%(1.2%) (8点以上を▲と表示)
Q. 不器用さやこだわり	4.2(4.3)／10	9.2%(7.2%) (8点以上を▲と表示)
R. 社会的受容	10.4(10.2)／16	7.0%(6.6%) (5点以下を▲と表示)

○ 「P.対人関係の不安」について、配慮の必要な生徒の出現率は中学校で増加が見られる

対人関係の不安については配慮の必要な生徒の割合が男女の区別なく、小6時と比較して倍増している。配慮の必要な児童だけでなく、学級や学年の傾向を把握し、それに応じてAFPYやグループエンカウンターなどの手法を用いた対人スキルトレーニングを実施するとよい。

○ 「R.社会的受容」について、男子に配慮の必要な児童が多い

性別で回答を比較すると、回答の平均値には男女の有意差は見られないが(男子10.1、女子10.7)、配慮の必要な生徒の出現率は女子5.3%に対し、男子8.6%と大きなひらきがある。